

## 22-07 男女共同参画推進専門委員会議事メモ

日時 平成23年 1月25日(火) 9:15~10:15

場所 総合研究棟Ⅱ 第2・3会議室

出席者 後藤理事、小川学長補佐

中島、大淵、富田、松村、門脇、花見、石阪、鈴木、

### 前回議事メモの確認

後藤理事から、事前にE-mailで確認した、22-06男女共同参画推進専門委員会議事メモ(資料1)については、配布資料のとおり記録にとどめた旨の報告があり、了承された。

### I 検討事項

#### 1. 各ワーキングの取り組みについて

- ◎ 鈴山委員より、本年度当初の計画どおり、人材育成にも焦点を当てながら全体的に活動してきた旨のコメントがあり、本委員会当日配布資料「人材育成・啓発WG活動報告」に沿って、以下のとおり報告があった。
- ◎ 委員会当日配布資料「平成22年度大学改革シンポジウム～地域の活性化と男女共同参画の推進～ 実施報告」にについて
  - ・ 各プログラム・実施体制等について、文部科学省生涯学習政策局長より、一つのモデルとして十分な成果だった旨の評価が得られた。
  - ・ 国立女性教育会館、共催の三重県・フレンテみえ、参加自治体・民間企業・各種団体等からも大変有益であったコメントを得られた。
  - ・ 出展団体者同士、実施後も連携が続いており、また新たな連携も生まれている報告もある。
  - ・ 一般参加者からも好評を得られた。
  - ・ 自治体関係情報誌へも掲載され、更なる啓発・波及・連携効果が期待できる。
  - ・ アンケート結果は、ホールプログラム、ロビープログラム共に非常に好評で、ホールプログラムがより好評だった。意見・感想欄に非常に多数の記入があった。
  - ・ 悪かったアンケートは無かった。
  - ・ 初めてでシュミレーションでできなかったが、担当委員および各委員の先生方に様々な役割をしてもらい、また、事務方とも協働で上手く総合力で運営できた。
  - ・ 初めての試みの託児も利用者に好評で、要約筆記者のスキルの高さ良さを感じた。
  - ・ ポスターデザイン、ロビープログラムの司会を各々学生に担当してもらい、参加者に対して、学生とも共に催していることが伝わった。司会者自身も勉強になった感想があった。
  - ・ 国立大学協会等への、この実施報告書の作成は、中島先生とも共に進めていく。

#### ◇ 主な意見

- 委員皆様のご尽力で、素晴らしい催しで、様々な意見交換・交流できた。
- 県内において本学中心で Face to Face 的なシンポジウムができ、本学の機能が活かされ、大成功だった。
- 三重県、フレンテみえ、本学のトライアングルで、定例的な取組みや、年1回持ち回りでこういう開催ができれば良いとも思い、大成功だった。
- 様々な関係者が一同に集まり、一つのテーマに対して十分な議論等ができた。
- パネルディスカッションでは、コーディネーターの仕切り・進行が素晴らしかった。
- 個性的なパネリストで、各人の個性を發揮でき、学長も発言し、インパクトがあった。

◎ 平成22年度部局別報告(研修)会実施について

- ・ 今年度も部局別報告(研修)会を行い、2年目でスムーズに開催でき、昨年12月27日(月)で終了した。
- ・ 感想を含んだアンケートも昨年度より多く、励ましの記入もあった。
- ・ 2年度間行い、各部局へ男女共同参画の情報の浸透・我々の活動が、より認知されてきた印象である。

◎ 学生アンケートについて

- ・ 学部別学生数に比例させ、総1,000部配布し、約90%回収終え、経営戦略室の中丸氏に情報処理に取りかかってもらっていて、2週間程要する見通しである。

◇ 主な意見

- 1・2年生への配布が少なく、ゼミ中心に3・4年生への配布が多かった。
- 男女比率は特に考慮せずに配布した。
- 配布学年別・抽出条件等を考慮しながら、アンケートを見る必要がある。
- アンケートの集計・分析は、本委員会の考え方に基づく必要がある。

◎ パンフレットの作成について

- ・ 制度整備WG主査と共同で作成中である。

◇ 主な意見

- コア人材育成・啓蒙WGと制度整備WGとの連携で、近々、初校が出来上がり予定で、掲載事項の検討も併せて行う。
- イクメン・育児短時間勤務制度等の周知と、さつき保育園・本委員会等の情報も掲載予定である。

2. 男女共同参画シンポジウム(3月15日実施予定)について

◎ 鈴山委員より次のとおり説明があり、事務局と調整して進めることとなった。

- ・ 1月28日(金)開催予定が、講師の都合により3月15日(火)に延期せざるを得ない。
- ・ 前半は当委員会・女性研究者支援室の活動報告で、後半は東京大学社会科学研究所教授による講演会を予定している。
- ・ そのテーマは「三重大学における男女共同参画の推進とワークライフバランス」で、100名超集まって欲しい。

◇ 主な意見

- 年度末近くで、参加者がどれくらい集まるか。
- 共通教育190番教室(六角校舎)を仮予約してある。

3. その他 特になし。

## II 報告事項

1. 平成23年度「統合教育」開講科目の新設について(総合科目ー男女共同参画推進基礎編)(資料2)

◎ 小川学長補佐より、次のとおり報告があった。

- ・ 女性研究者支援マインドの学内への波及のさせ方の観点からも、本委員会での取組みを教育へも反映していきたい。
- ・ 学部学生1~4年生・大学院生対象とし、多数に受講してもらいたい。
- ・ 専門的なジェンダーに対して、男女共同参画の基礎的な内容にしたい。
- ・ 全15コマ

◇ 主な意見

- カリキュラムマップが出来ると良い。
- キャリア専門の当委員会委員の先生との連携授業も可能ではないか。

2. 男女共同参画推進室の説明（資料3）

◎ 後藤理事より、次のとおり報告があった。

- ・ 女性研究者支援室から始まり、本委員会等々で色々本学での新たな社会の仕組みを模索・推進して来ている。
- ・ 委員の先生方への負担も大変だったと思う。
- ・ 当委員会は基本的に審議機関で、企画・審議・実行していくのは負担が大き過ぎる。
- ・ 女性研究者支援室の JST 事業が今年度で終わり、大学本部として何らかの形で体制を整備したいと考えて来たのが男女共同参画推進室である。
- ・ 親委員会として男女共同参画推進委員会があり、その下に本委員会があるが、専門機能・分担の明確化で同室を立上げ、本委員会との間で企画・実施の支援を横並びの中で推進していくのが主旨である。
- ・ 同室の具体的な取組みは多方面にわたろうであろうが、ワークライフバランス、女性研究者支援（医師・教育者含）・バックアップ、働きやすい環境作り、能力発揮の環境作り、諸制度等々、色んな取組みがワークライフバランスに繋がる場所である。
- ・ 慎重さを要するが、色々なバランス、この2年間の実績・本学教職員等へのその広がりを経て、同室の立上げに結び付いて、本年4月1日に開室予定である。

◇ 主な意見

- かたちとしては、この様な感じだと思う。
- 本委員会とは別組織で、学長・理事直下の同室なので、理事の案として役員会での審議・決定を行う予定である。

3. その他

◎ 鈴山委員より、席上配布の資料により、次のとおり報告があった。

- ・ 東京大学と東海大学の研究発表会に参加した。
- ・ 東京大学は男女共同参画加速のための宣言をし、パンフレットも発行している。
- ・ 推進体制の中で、東京大学の説明で良く分かる資料をもらい、本学設置の同室の内容や、事務との関係等を理解できた。
- ・ 東京大学は、2002年から色々検討されて来ての今日で、現在その加速として動いていて、2015年を目指しての項目も記載されている。
- ・ 東海大学では、女性研究者支援を受けた方の発表があった。
- ・ 同支援を全国55大学で受けており、10～30年後の研究体制において、被支援女性研究者等が開花するのではなかろうか。

次回開催については、追って調整することとした。